

feature interview

DJ KOYA

常に新しい何かを発信すべく、自らの感覚を研ぎ澄ましているDJ KOYA。
毎週火曜日の“RED ZONE”への思い入れが伝わってくるインタビューを要チェック!

■最近の“RED ZONE”はどうですか?

以前“RED ZONE”でMCとDJをやっていたCHAPSが抜けてから1年以上経って、今まであんまり接点の無かったような若いDJたちにOPEN UPを担当してもらうようになりましたよね。今までは身内とかいつも一緒に居るメンバーでやらせてもらったのが、最近若いDJたちとリンクするようなパーティーになったんじゃないかと思えますよ。前は早い時間も知ってるヤツらだけでやったりして1日をまかなってたじゃないですか。今は新しい助っ人が入ってきて、それが一番デカイ変化じゃないですかね。

割とどのパーティーを見ても若いDJたちにチャンスを与えるようになってきているとは思いますが、“RED ZONE”も自然とそういうふうになってきて、早い時間にDJをやるのって若手にもプラスになると思うんですね。一緒にやっている若手のDJが巣立っていくという形が出来つつあるじゃないですか。早い時間にやってくるDJたちが、オレらとも近くなってオレらがやってくる音楽がいてくれるようになってきたら、ここで経験したものを外で活かしてくれたらいいなと思うし。金曜日とか土曜日とかは週末の使命感みたいなものがあると思うんですけど、火曜日って早い時間はけっこう自由だと思うんですよ。オレらがやってくる事を見て、それを実験的に実践できる場だと思うんですよ。そういう意味では登竜門的な感じで見てもらってもいいんじゃないかなと思ってます。「ここからいいDJが出てくるんじゃないか」って興味がある人には早い時間から来てもらえると、以前とは違う“RED ZONE”の一面が見れるんじゃないかなと思いますね。

■KOYAさん自身に変化はありますか?

オレは客観的に見る部分が凄くあって、それについてどうこう言うタイプじゃないから。曲がった事には口を出すけど、それ以外は自由奔放にしてるところがあるし。今も昔もオレの中の精神ってのは変わらないんだけど、周りの状況は目まぐるしく変わって、1年1年全然違うと思えますよ。特にここ1年、CHAPSが抜けてからのシフトっていうのはオレにとっては結構デカかったから。今までいたヤツらとこれからいるヤツらと自分の関係性って、バランスがなかなか難しいじゃないですか。新しいヤツらに昨日までやってたヤツらと同じ事をやれって言うてもなかなかできないと思うし。そういう意味では、シフトチェンジして1年くらい経った今、また良くなってきているんじゃないかと思ってますよ。最初はこういうふうになるか分からない不安とかもあったし、心の中で色々考えてた事もあったけど、今は客観的に見て凄くいい感じだと思っていて、最近はずっと楽しいです。

■相変わらずニューヨークは意識していますか?

もちろん(笑)。現地に後輩も居るんで、そこから情報を集めたりとかもするし、HARLEMの協力もあって自分の大好きな色んなDJとコラボレーションさせてもらってるんで、そこでコミュニケーションも取れるし。外タレとはデータ交換したりとか、そういうやり取りになってるけど、それも大きいと思いますね。後輩からは週に2回くらい電話が来るんですよ。そこで結構ディープな話をして「今こっちはこんな感じですよ。そっちはどうですか?」みたいに情報交換してますね。細かく説明し合わなくても聞きたい事が解って、やっぱり、一緒に居たからツボを解り合ってるん

ですよ。だから前より簡単に情報が筒抜けになってますよ。

コンピューターがあるからってのものあるんだけど、情報が透けて見えるってのが妄想じゃないとか、凄くリアルな事がダイレクトに伝わってくるんで。あとは何をやるかってのがこれからは絶対に大切になってくるんじゃないかなって思いますね。情報だけで「お前知らないだろ、オレは知ってるけど」って時代はもう終わると思うんですよ。前はプロモ盤がそういう感じだったじゃないですか。「よっしゃー、オレしか持ってない」とか、逆に「いいなあの人持ってて」とか。「持っている人間になりたいな」っていう状況だったけど、それって変な感じでもあったじゃないですか。「持っている人間が勝ちなの?」みたいな。今は音源なんかデータで拾えるわけだし、もうそういう時代じゃ無くなってますよね。これからは何を選んで何をやるかってのが大事になってくる時代だと思うんですよ。何でもあるから何でも使うってのは違うと思うし、情報がいっぱいあるからいい時代っていうんじゃないかって、数ある情報の中から自分で判別してやっていくっていう選ぶ目を問われる時代になってますよね。いい意味でも悪い意味でも、そこがこれからの時代のスキルとか勝負のしどころにもなってくるって感じですよ。

■データでやり取りするっていう事がScratch Liveにも反映されていますか?

反映されていますね。レコードで無いものがデータであったりするから、そういう曲を使いたい人にとってはScratch Liveを使うのってしょうがない部分があると思うんですけど、逆にオレはScratch Liveが絶対的にいいわけじゃないって再認識してるんですよ。オレはやっぱり早いものが好きだし、すぐに取っ付くところもあって、間違いないとは思ってみんなに推進してきたけど、だからといってレコードを使う事は間違っていないと思うし、それはそれでそのDJのスタイルだと思ってるから。「オレはScratch Liveを使ってるヤツには出来ない、こんないいプレイがある」とかそういうスタイルを持ってやっていけば、何が正解っていうのは無いから。Scratch Liveにしてもレコードにしても、お互いの良さってのがあるんだろうなって思ってますよ。やっぱりレコードの良さはレコードにしか無いものだと思うし。レコードのリリースの前にデータでゲットしておいて、レコードが出たら入れ直す事も多いし、単純にレコードも買いたいしね。Scratch Liveだけでも味気ない部分もあるから、レコードを買うっていうのはずっと消えない事だと思えますよ。Scratch Liveで助けられる部分は助けてもらって、でも今まで通り続けて支障がない事は今まで通りに続けていきますよ。

オレはScratch Liveだろうがレコードだろうが、何を使うっていうところよりも何をやるっていうところを重視して考えてもらいたいですね。地方に行ったりしても、過度にScratch Liveがどうこう言われる事があって「やっぱりこれ凄いですね。これじゃないと認めませんわ。」みたいなのが始まるんですけど、オレ的には「そこじゃないんだってー」って言いたいんですよ。Scratch Liveを使ってるからナイスだとか、そういう勘違いは絶対にしないで欲しいですね。みんなにも「あいついいプレイするな」って思われるところに労力をかけていって欲しいし、その武器としてScratch Liveを使うのか、ヴァイナルを使うのか、CDを使うのかを考えればいいんじゃないですかね。



Scratch Liveを使う事でプレイの幅は広がるんだけど、情報があり過ぎちゃってる事で自分でも行き過ぎちゃってる部分ってのも絶対あると思うから、あるからこそセーブするって事に今は凄く神経を使ってますよ。「あり過ぎちゃうからやり過ぎちゃう」だど、どうしても色ってのが無くなっちゃうだろうし。昔から築き上げてきたものって大切だから、「何でもあるからやっちゃえ」っていうんじゃないって、やりたくなくなっちゃう自分に自問自答って感じですかね。「やっちゃえ、やっちゃえ」っていうのと「抑えろ、抑えろ」っていう葛藤がプレイの中にあたりもするし、そこが何でも持っている怖さだとも思いますよ。定番の軸になるものをしっかりさせて、プラスαをどこまでやるかっていう事ですよ。今だと流行りのものとカマッシュアップだブレンドだとかリミックスだとか色々あるかも知れないけど、軸にはメインのものがある、それが引き立つための材料にしたいんで。ちょっと変わったロックをどこかに混ぜるっていう事の意味合いも実はそれだけであって、一番大切なものは今のメインストリームを軸にしてやるパーティーだって事だから。ちょっと暴走する事もあるけど、それだけは忘れないようにやってる感じですよ。

■KANGOさんとそういう事を話したりしますか?

オレが言ってる事とか、言わなくても全部解ってると思うから、プレイについて個人的に話す事はほとんどないですね。データの交換とかも、昔に比べてはほとんど無いし。だいたいの骨組みなんかは、何年も一緒にやってるからお互い解ってるし、そんなに深くは話さないですよ。「同じ曲はかけないようにしよう」とか、誰しもが思うような事しか意識しないですよ。

■“RED ZONE”はいい意味で凄く安定してきたと思いますが、今後の展望は?

“RED ZONE”は元々他とはパーティーの作り方が違うと思うんですよ。1日の流れを大事にするっていうところがN.Y.的なパーティーらしく、L.A.は「ここからはオレのプレイね。だから盛り上がりだ。」ってスタイルらしくて、どっちかって言うと日本のパーティーってL.A.スタイルに近いのかも知れないなって思ったりするんですけど、でもやっぱりオレは昔からN.Y.のパーティーの作

り方が好きだから、これから先も“RED ZONE”はそこにテーマを置きながらやっていきたいと思ってますね。このテーマは絶対変わらないけど、でもそこに協力してくれるようなメンバーとかは変わっていくんだと思うんですよ。巣立っていく若手もいるだろうし、新しく入ってくるヤツもいるだろうし。そういうヤツらとガッチリとコミュニケーションを取ってやっていきたいし、これからも新しいヤツと知り合って“RED ZONE”で固くやっていきたいと思ってますね。N.Y.みたいなパーティーをやりたいてのは一貫して変わらないんで、“RED ZONE”は色んな事を発信していくパーティーとして在り続けたいですね。DANCEでもLIVEでもそうなんですけど「“RED ZONE”でやってるものはいい」って思ってもらえるようなパーティーにしていきたいですね。

■DJ KOYAとしての今後の展望は?

オレとしては現場主義っていうのは変わらないけど、“RED ZONE”に関しても毎回100%満足できるわけじゃないじゃないですか。全てがそういうパーティーじゃないから、100%満足できるパーティーがスタンダードになってもらえればとは思いますが。そうなればもっと突っ込んだ事も出来るようになるだろうし、そうなる事によってパーティーももっと進化するんだと思うし。DJには色んなDJがいるけど、オレはパーティーDJだし、これから制作する事が全く無いとも言えないけど基本はパーティーが軸になるから、もっともっとかっこいいパーティーが増えるような東京でしてもらいたいと思う。それがHIP HOP全体のテーマだとも思うし。現状はいいパーティーばかりじゃないと思うんですよ。だからもっともっとHARLEMの火・金・土のレギュラーパーティーのような素晴らしいパーティーが増えてパーティーが盛り上がりてくれたらいいなと思ってます。

■読者にメッセージを。

とりえず楽しいパーティーを作るんでよろしく。あとは継続しろって感じですかね(笑)。毎週じゃないにしても、続けて来てもらわないと分からない部分ってあると思うんで。DJにしてもパーティーにしても何に於いても、「継続は力なり」じゃないけど一つの事をリスペクトして行って下さい。☺